

# こもれびの森 通信 11月号

2015

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告 -ウッドランドクラブ10・11月-

～秋を満喫、きのご観察ときのご鍋～10月18日(日)

10月は「カゴ編み教室」や「一閑張り」に引き続いて、18日に「きのご観察会」がおこなわれました。観察会の前に、ササの葉で「ちまき」を作りました。秋も深まって紅葉が美しい一桧山に入り、お目当てのキノコを探し当てました。この時期らしい快晴のもとでそれぞれの秋を満喫した一日となりました。



＜採れたてのキノコ＞



＜ちまき作り＞

お昼はもちろん「きのご鍋」と、マイタケも入った「ちまき」をいただきました。

～クズなどのツルでカゴ編みに挑戦～11月15日(日)

15日は今年度最後のイベントとなりました。クズのツルを使った「カゴ」の他に、「クリスマスリース」も作りました。木の実や木の葉を利用して、すばらしい作品ができました。籠アミも、名人佐藤和男さんの指導のもと、個性的な「カゴ」が出来上がり、皆さん満足されたようです。



＜イイでしょ!!!＞

## 閉館のお知らせ

4月1日の開館よりご利用ありがとうございました。12月1日より冬期の閉館となります。来年度も4月1日より開館します。楽しい施設をめざして、皆様のご来館をお待ちしております。

## こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで  
専属ことりカメラマン(?)  
の大友さんのコーナーです

### “どっちが覗いてんの”？・・・“どっちも”

ヤマドリが良く現われる所で待つことしばし、草むらの葉がピク、ピクと動きます。葉の間からヤマドリのメスが覗いています。

シャッターを押しながら覗きます。若鳥かな？驚く様子もなく、しばし対面の後お尻をモクモクさせながら去っていきました。



＜ヤマドリ・メス＞

“ちっちゃい目がめんこい” エナガとカラ類の混群が見られるようになりました。実や虫をむさぼるように食べ冬に備えています。今年はカワガラスの子育て、アカショウビンの撮影と幸運な1年でした。草木川ではカワガラスがつかいで飛び回っています。来年も子育て見たいです。

こもれびの森ありがとう！！



＜エナガ＞

## ミツケ！こもれびの森

こもれびの森でみつけたよ

ほころびがなんとも・・・

木々の葉が落ちると、時に枝先に黄緑色のウスタビガの繭がぶら下がっているのを見かける。小生が小さい頃はこれを「ヤマビコ」と言って、見つけるとなぜか枝ごと折って家に持ち帰り、柱や鴨居に飾った。

後々知ったがこれはお守り？魔除け？のようなものとして各地でその習わし？があったという。ウスタビガの言われが面白い。「薄手火蛾」は、繭の形が提灯に似ているから（手火は提灯のこと）の説と、「薄足袋蛾」は、成虫の羽にある大きな丸い紋様が透けて見える様が足袋（靴下）のほころびに似ているからの説である。

近年は靴下もほころび前に捨ててしまうが、小生の小さい頃は、靴下は貴重だった。ほころびを何度も繕って履いていた。小生は、後者の説がなんとも好きである。



＜繭(ヤマビコ)＞



＜成虫(ウスタビガ)＞

## まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～「1種だけの生きた化石」～・・・イチョウ・・・

イチョウ並木が輝く季節になりました。日本の街路樹で最も多いのがイチョウです(約57万本)。さて、このイチョウですが、祖先は古生代までさかのぼり、2億年前～1億5千万年前のジュラ紀には多くの種類とともに繁栄していた植物です。しかし、氷河期に仲間はずべて絶滅し、今、見られるイチョウ1種類だけが中国に生き残りました。日本には薬用植物として、室町時代までには伝えられていましたが、西欧には江戸時代初期に長崎経由でオランダに持ち込まれたといわれます。以後、ドイツ・オーストリアからイギリスまで植栽され、現在は日本と同じように街路樹として親しまれています。

イチョウの葉は、扇のように開いているので広葉樹に見えますが、分類上は裸子植物で、限りなく針葉樹に近い樹木です。また、雌雄異株で雌花の独特の受粉方式や、主脈と側脈がはっきりしない葉など原始的な形態をとめている植物です。

他のイチョウ科の仲間が全滅しているため「生きた化石」と呼ばれ、「絶滅危惧種」にもなっています。紅葉の季節、太古のDNAを引き継ぐイチョウの色づいた葉を楽しみたいものです・・・(千葉)



＜イチョウの「冬芽」＞

## 雑記

7月、8月の猛暑と9月には未曾有の大雨にみまわれ異常気象を実感させられましたが、このところの青空と春を思わせる柔らかな雲、そしてモミジやドウダンの紅葉に心がいやされる思いです。森林科学館も今年最後のイベント『クズなどの蔓(つる)でかご編に挑戦』の後、冬季閉館に向けての園内・館内作業に突入です。今年もおおぜいの方々にご来館戴きありがとうございました。これからも自然とのふれあいの場、心安らく施設をめざし職員一同努力していきますので、今後ともご来館ご利用をお願いいたします。またこの場をお借りしまして、当館の活動をささえて戴いていますサポーターの皆様にご心よりお礼申し上げます。

宮城県こもれびの森「森林科学館」(山本)